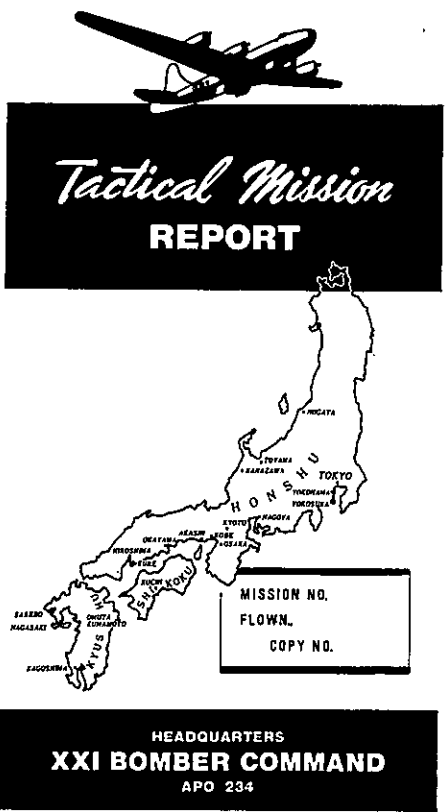


# アメリカ軍の 「堺大空襲」 作戦報告

20年6月15日の第四次大阪大空襲をもって、五大都市（東京、名古屋、大阪、神戸、横浜）に対する焼夷弾攻撃を完了したあと、マリアナ基地のB29部隊（第21爆撃機軍団）は中小都市に対する焦土作戦に着手した。  
「大阪大空襲に関するアメリカ軍資料」アメリカ第21爆撃機軍団戦術作戦任務報告（小山仁示監修 大阪府平和折念戦争資料室発行 原資料提供 アメリカ国立公文書館）に7月10日未明の堺大空襲（大阪第六次II堺第四次）についてのくわしい作戦報告がある。



小山仁示氏著の「大阪大空襲」（一九八五年発行 東方出版）によると次のとおりである。

第二爆撃機軍団の戦術作戦任務報告は、目標である堺市の重要性について、次のように述べている。

堺の主要価値は、大阪市に近接している、その工業が大阪市の工業と統合されていることにある。また、この都市は大阪の軍需工場の労働者に住宅を提供している。大阪の工場に打撃を与えるために、堺の軍需工場には水上機の格納庫がある。

この堺市に対して、戦術作戦任務報告によると、以下のように攻撃がおこなわれた。

堺大空襲のためにアイズレイ飛行場を前進したB29攻撃部隊は、先導機一二機、主力部隊一二機、あわせて二二四機、一番機の離陸は九日午後六時六分、最終機の離陸は午後七時三十分だった。ほかに天候観測機一機が発進した。この天候観測機は爆撃に参加したので、攻撃機一二五機が発進したという方が正しくなる。搭載弾は、二〇機がE46焼夷集束弾、四一機がE36焼夷集束弾、六四機がM47焼夷弾だった。M47を積んだ六四機のうち、一二機が先導機であった。したがって、主力部隊一二三機のうち、六一機がM69を内蔵するE46またはE36集束弾、五二機がM47を積んでいたということになる。M47というのは、一〇〇ポンド（四五キロ）の炸裂型、酸化ガンソリン焼夷弾、M69というのは、六ポンド（二・七キロ）の六角筒の尾部噴射、油脂焼夷弾である。

戦術作戦任務報告によると、堺大空襲の場合の第七三航空団の一機の搭載可能限度量は一万七〇〇ポンド（七六五〇キロ）、平均は一万五〇〇ポンド（六七五〇キロ）と見積もられていた。当日、アイズレイ飛行場を前進したB29のうち、堺上空に到達して爆撃したのは、天候観測機を含めて一六機であった。この一六機が七七八・九トンと報告されているから、一機当たり六七・一五キロ積んでいたという計算になり、司令部のほぼ予想どおりの焼夷弾が搭載されたことになる。なお、航空情報レポートによると、一一五機が七六五トンと投下、天候観測機が六トンと投下ということになっている。

三か月前の三月一三日深更から一四日未明にかけての第一次大阪大空襲の場合、来襲機数は二七四機、投弾量は一七三三トンであった。この前後の東京・名古屋・神戸の大空襲も、ほぼ同じ規模だった。これらとくらべると、堺の場合は来襲機数も投弾量も四割強である。片や人口何百万という巨大都市、片や人口二〇万に満たない地方都市である。いかに大量の焼夷弾が濃密に堺に浴びせかけられたかがわかる。

に向けて侵襲していく。その妖怪な世紀の通り魔のような姿を市民はただ茫然とながめ、次に来たるべき事態を予測して不安に胸をおのかせている間に、たちまち大阪の上空は真赤に染まってきた。

この時、大阪の中心部、西区・南区・浪速区・大正区等が呪うべき劫火のためほとんど焦土と化し、多くの人命を失い、巨億の財宝が灰燼に帰し、悲惨極まる修羅場を現出しつつあったのである。

一日午前一時一〇分頃、大阪上空に殺到しつつあったB29の後続機が、遂に堺の上空にも侵入してきたのであった。「空襲だ」「敵機来襲」の叫喚は、八点の乱打鐘と、堺近郊の高射砲陣地より猛然と撃ちだす腹の底までグンと響く砲声や炸裂音と交響錯雑し、たちまち堺は熾烈な戦場と化した。蒼茫とした探照灯に照射されたB29は、この地上の憤怒と叫喚を尻目に、ゆうゆうと飛翔した。それは実に名状しがたい憎悪感をそそりたてるほどの落着いた飛翔ぶりであった。B29をめぐって曳光弾が次から次へ矢のように上昇して行き、その周辺には高射砲弾が間隙なく炸裂した。だが、たくみに弾幕を逃れたB29は堺の東北部上空に至って遂に焼夷弾を投下したのである。網膜を刺戟する強烈な稲妻のような閃光と同時に、赤い火の塊は中天で轟音とともに炸裂して、そこに大きな火の大傘をパッと開いた。そして次の瞬間、無数の火筋は錦織町東部・香ヶ丘町・浅香山町の一帯に雨のように落下し、たちまち愛泉女学校・大阪電機学校および付近民家を猛炎に包んだのである。市民は惨烈な劫火の現実に直面し、いままらのように堺も焦土と化す予感に思わず戦慄した。この時の火の雨の落下状況を後日罹災者の一人はつぎのように語った。

「火の雨の幅は四、五丁位に及んだらう。形容のできぬザーという異様な音響とともに無数に火が降ってきた。そして地上に落下すると一斉に跳躍飛散したが、まるで地上に火の華が咲いたというか、地獄から突如として妖火を吐き出したというか、物凄き限りで、地上の一切が焼きつくされるかと思われた。」

ところがこの第一回のB29来襲について、二時頃、さらに他の一機が照射を浴び弾幕を潜って西南方より堺の上空に侵入して、今度は数千発の筒形油脂焼夷弾を、南は花田口筋北側より北は中日橋筋まで、東は阿倍野鳳線府道西側より西へ土居川沿岸約半丁手前までの僅か三四丁四方ほどの狭い範囲に落したため、たちまち延焼また延焼し、猛炎が天を焦し黒煙がうすまるといふ有様となり、罹災住民は一物を持ちだす余裕もなく、かろうじて脱出したのである。

しかもこの間、南庄町の一部や阿倍野鳳線道路に沿う工場や民家にも火災が発生し、第三次・第四次と相つづくB29の波状攻撃は、七道町の日本セルロイド工場事務所ならびにその周辺を焼き、東部・中部・西部の猛焰が相呼応してすさまじい光景を呈し、さらに次に来るべき事態を予想して、その憂慮はまことに深刻なものがあつた。ことに大小路以北は日本放送電の高圧線が切断されたため第一回爆撃の直後に停電し、ラジオ情報の聴取も不可能となり、しかも種々雑多の流言蜚語が流布されたから、市民の不安はいっそう助長された。

しかしB29の堺上空における跳梁も、午前三時頃東南部より西北方へ一機通過したのをもち、一四日午前三時三十分ようやく空襲警報解除の号笛が朗々と鳴りわたり、市民ははじめて安堵の太息を吐いた。

(昭和20年3月14日午後現在)

罹災者数	死者数	負傷者数
168	0	4
318	0	6
140	0	3
102	3	2
70	1	8
798	4	23

被害状況 この第一次の空襲による被害については、三月一四日午後二時から開会中の市会予算本会議において河盛市長がつかぎのように報告している。

警報 一三時三十分 警戒解除、同日三時三十分 警戒解除  
同日三時五十分 警戒解除  
投弾 一時一五分 愛泉女学校付近に焼夷弾落下、愛泉女学校及民家火災。一時五十分 香ヶ丘町大阪電気学校火災。二時 堺東駅付近に約二〇〇個焼夷弾落下。二時五分 北向陽町付近民家火災。二時一十分 南庄町・北向陽町・南向陽町民家火災。二時四十分 鉄砲町・三五七道付近にも火災、大日本セルロイド事務所全焼。二時四十分 南島一・二丁焼夷弾落下。二時五十分 東面精工・日輪第二工場・石川鋳造所火災。三時四十分 鎮火。

表 150 被災者状況

学区名	全焼(戸)	半焼(戸)
陽場	15	10
馬場	80	11
綾宝	36	4
錦三	18	5
合 計	9	7
	148	37

被災者の状況は表二〇のとおりで、このうち重傷者は松下病院に三名、堺病院に一名、井上病院に三名、市民病院に二名収容したが、うち四名は骨折・火傷・内臓出血などにより死亡した。

被災者の救援 被災者にたいする救援については、市および警察署が主体となり、各種団体の協力のもとに、とりあえず向陽・錦織・殿馬場の各国民学校に被災者を収容し、翌一四日より一七日まで、錦織・殿馬場・錦・向陽・三宝各学区内の被災者全部にたいし、毎日三食、延八・三三六食の給食を施すとともに、さらに応急米五合ずつを特配し、子供・病人にたいしては一日平均一斗の牛乳を一日より二〇日まで配給し、人工栄養児には練乳一五罐を配給した。一方罹災者用物資購入券を全被災世帯に交付し、これによって味噌・醤油の繰上げ配給、マッチ・七輪・火鉢・ほうき・下駄・傘・ちり紙・石鹸等の日常生活必需品の優先配給を行ない、また一人につき二五〇点の衣料切符を発行し、肌着類その他の衣料品を優先配給して、被災者救済の完璧を期した。なおこれらと呼応して大日本婦人会・連合町内会等では、一般市民の隣人愛に訴えて、衣料品その他日常生活必需品の提供を求めたところ、蒲団・毛布・蚊帳・座蒲団等の寝具三、五四三三点、鍋・釜・湯沸・こんろ・食器・その他の炊事道具六万八、七九三三三、履物六、三九五五五、衣類(着物・肌着その他)二万五、四二二二点、およびおびおたし、古雑誌・筆記帳・文房具・その他雑品の供出をみたので、これを保管し、堺市民の被災者のみならず、大阪その他の被災者にも贈呈することになった。

なお被災者救済については、右のように市は民間各機関と協力し直ちにこれを実施したが、救援救済に関する予算決定のため、三月二六日市参事会を招集し、戦時特別費中戦時災害救援費一萬二、二四〇〇円の追加予算(内訳、事務費二、八〇〇〇円、見舞金九、二四〇〇円、弔慰金二〇〇〇円)および戦時災害保護費・救助費として、国庫において負担すべき四万六、〇一九円を繰替支出する案を付議、承認をえたのである。

以上のように市が被災者の救援に忙殺されているさい、大阪市の罹災者が続々と堺へ避難しつつあり、大阪市警察局長は堺北署宛に罹災者収容命令を出した。しかしこれを無制限に収容するわけにいかなかったため、堺北署では四か所において殺到する罹災者をくい止め、八田荘学区に三〇〇名・鳳学区に五〇〇名・浜寺学区に一、二〇〇名、合計二千名に限定して収容することにした。

交通機関の状況 爆撃による発電所・高圧線の被害、ならびに各交通機関の車輛・線路等の焼失もしくは破壊のため、